

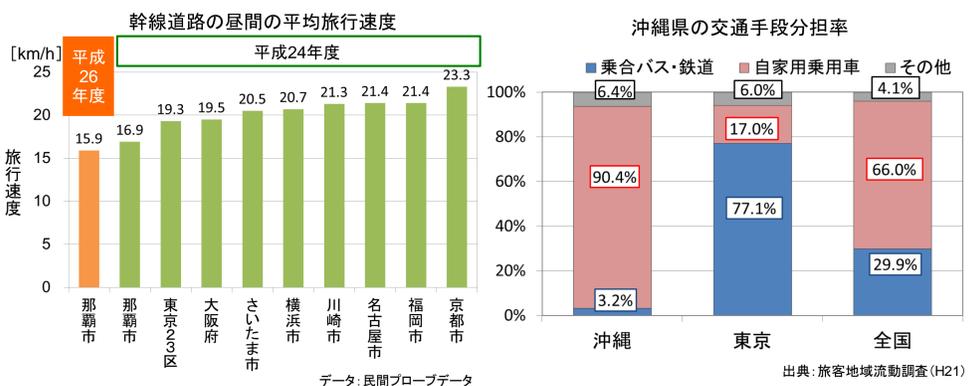
「1人ひとりの少しの工夫で渋滞をなくそう」 わった～バス大実験プロジェクト

内閣府沖縄総合事務局開発建設部道路建設課
 沖縄県企画部交通政策課 一般社団法人沖縄しまたて協会
 一般財団法人計量計画研究所 株式会社中央建設コンサルタント

1. 背景・目的

◆沖縄県では、自動車による渋滞対策が喫緊の課題

- 那覇市の平均旅行速度は全国ワースト、年々渋滞が悪化する傾向
- 沖縄県の旅客輸送の手段分担率 **自動車：90%、乗合バス：3%**
⇒沖縄県は、全国的にみても **自動車に偏った交通体系**



- 沖縄総合事務局では、「沖縄の新たな交通環境創造会議」を開催
⇒早期実現課題として「県民意識への効果的な働きかけ」を掲げた

公共交通機関、自転車、徒歩、あいのり等による **ノーマイカー通勤、又は時差出勤**で「かしこく道路を利用」することにより、通勤時の「渋滞を緩和」を図る「わった～バス大実験」を実施

2. 都市圏の道路・公共交通の利用実態

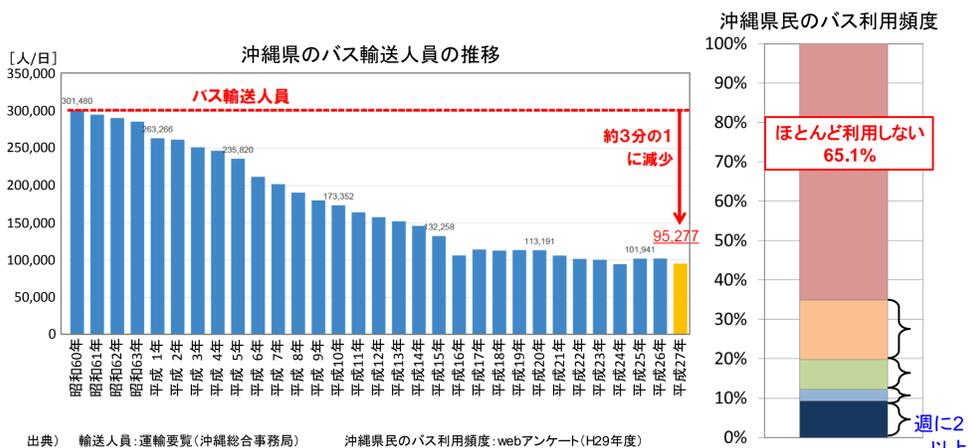
1) 沖縄中南部都市圏の道路交通の実態

- 都心部に向かう主要な幹線道路は7時台を中心に速度低下生じ、最大でオフピーク時の約3倍
- ピーク時間は短く、30分程度ずれるだけで所要時間遅れは大幅に緩和



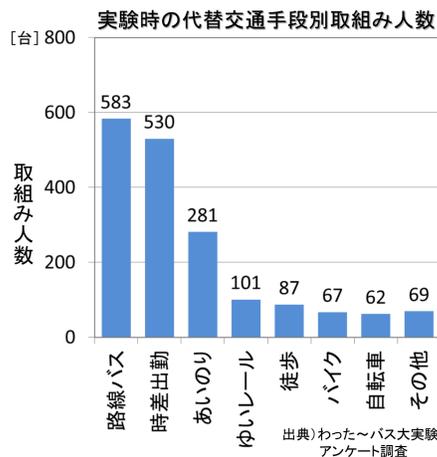
2) 沖縄県におけるバス利用の実態

- 沖縄県のバス輸送人員は、昭和60年以降30年間で約3分の1に減少
- 沖縄県民に対して実施した、バスの利用頻度の調査において、**県民の約3分の2はバスをほとんど利用しないことを確認**
⇒バス利用しない人は「バス停認知度」、「行き先認知度」等が低い



3. わった～バス大実験の概要

- 公共交通利用等の **ノーマイカー通勤**や **時差出勤**に取り組む「わった～バス大実験」を実施
- 「1割の協力 (10人に1人、10日に1日) で渋滞は緩和」を合言葉に、**延べ160社 1,917人が参加**



わった～バス大実験 参加事業所募集中!!

実験期間：平成29年9月16日～9月22日
 わった～バス大実験は、実験期間中に参加頂いた企業や事業所の皆様に、ノーマイカー通勤や時差出勤などに取組んで頂くことで「かしこいクルマの使い方」について考えて頂くとともに、道路渋滞の減少効果について検証を行うものです。

募集内容
 実験期間中に、公共交通機関、自転車、徒歩、あいのり等によるノーマイカー通勤、または時差出勤に取組んで頂き、実施結果をご報告頂ける企業・事業所等を募集しています。(応募は裏面の参加申込書をご利用下さい)

取組内容の例

- ① 読書しながらバス・モノレール通勤
- ② ラジオ体操に出かけるつもりで早朝出勤 (時差：早出)
- ③ たまにはやってみよう！重役出勤 (時差：遅出)
- ④ 通勤途中に住む同僚をお迎えするあいのり通勤
- ⑤ 自宅で眠っている自転車を使った通勤
- ⑥ 職場の飲み会に併せてみんな揃ってバス・モノレール通勤 など

※ 貴社の通勤で自転車を利用している職員がおり、実験期間中にノーマイカー通勤や時差出勤に取組んで頂くアンケートへ回答頂くことが参加条件となります (交通、事業所、部署単位でも可参加頂けます)
 ※ 実験期間中であれは一人1日1回の取組んでも可参加頂けます
 ※ プレゼントするOKICA (チャージ金額：500円) は個人を特定できない非接触型ICカードですが、平成30年3月末日までの乗車実績を本実験の効果分析等に活用させて頂く事に同意頂く必要があります (カード提出や返却の必要はありません)



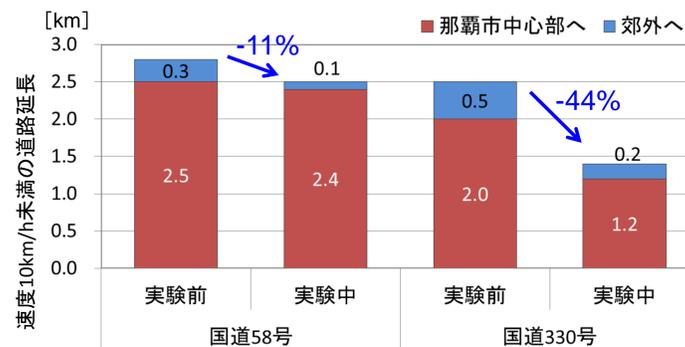
4. わった～バス大実験の取組み効果

1) 主要路線の渋滞長の変化

- 主要幹線道路でピーク時交通量が1～2割減少、伴って渋滞長減少
⇒ 国道58号：約10%の減少 国道330号：約45%の減少

◆主要幹線道路の代表区間の渋滞長の変化 (7時台)

データ：民間プロブ
 実験前：2017.9.7～9.15の平日
 実験中：2017.9.16～9.26の平日

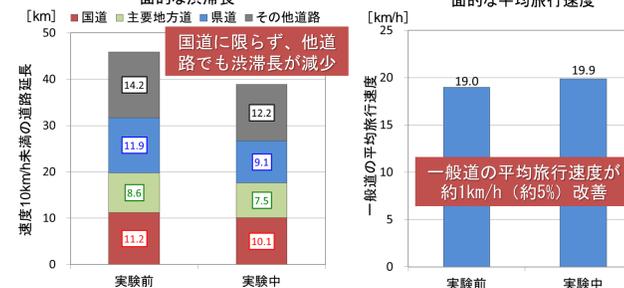


2) 面的な道路交通状況の変化

- 主要幹線だけでなく、都市圏における面的な渋滞緩和傾向を確認

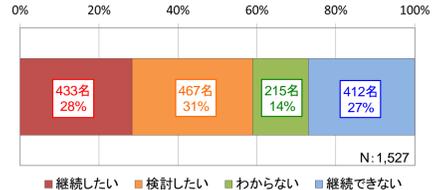
◆那覇市及び周辺市町の (浦添市、豊見城市、南風原町、西原町) 渋滞長、旅行速度変化

データ：民間プロブ
 実験前：2017.9.7～9.15の平日
 実験中：2017.9.16～9.26の平日



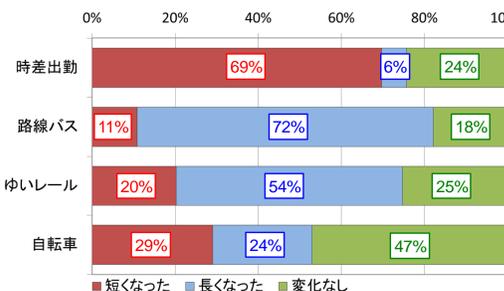
3) 実験参加者の継続希望

- 約6割の参加者が公共交通利用等の **ノーマイカー通勤**や **時差出勤**の継続に前向きな意向



4) 実験中の取組み手段別所要時間変化

- 時差出勤は時間短縮傾向
- 路線バス等の公共交通は時間増加傾向
- 所要時間が長くなっても公共交通の継続的な利用を希望する人も存在



5. まとめと今後の展望

- 県民意識への効果的な働きかけとして実施した「わった～バス大実験」に多くの企業が参加し、渋滞を緩和する取組みを実施した
- ビッグデータを活用し、実験終了後短期間で対策効果を発表した
- 過半数の参加者が、実験で実施した取組みの継続に前向きな意向を持っており、今後更なる働きかけを実施